

人 76 太極拳愛好会で太極拳を指導

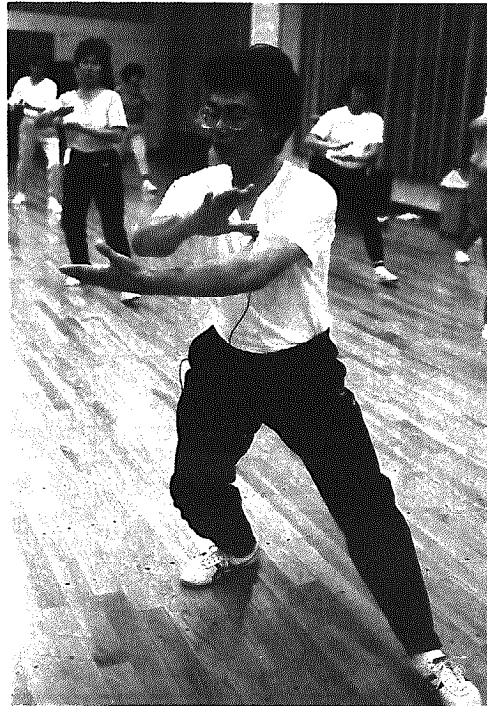
堀内 紀雄さん
諏訪町・三十一歳

昨年十二月号の、この「人欄」で、新潟市太極拳協会の副会長をされている筑波さん(寺地団地)を紹介したとき、町内に太極拳のサークルはまだなかった。あれから一年もたっていないが、北部地区公民館で太極拳愛好会ができ、毎週金曜日の夜、練習を行っている。今年の六月、北部地区公民館で初心者太極拳教室が開かれたのがきっかけだった。

そこで太極拳の指導を主にしているのは、新潟市太極拳協会の会員の堀内紀雄さんと山田由美子さん(興野三区)の二人だ。

二人のうち、堀内さんは今年八月の全国競技会で、四十八式という種目で二位になった。こうした競技会へは三年前から出場、その時は二十四式で六位に入った。

「競技会へは自分のレベルを知るためということで、参加してきたのです。今回、二位になれたのは運がよかったこともありすが、ある程度結果が出たということうれしいですね」



太極拳愛好会で指導している堀内さん。太極拳愛好会の練習日は毎週金曜日で、時間は午後7時30分から9時まで。会場は北部地区公民館。会費は月1500円。連絡先は☎377-5963吉村時男さん。会員は9月現在32人で、30代から70代のお年寄りまでが参加している。

二十四式で六位になった翌年、日中親善の代表選手として、中国へ行った。「驚いたのは、向こうの人は朝が早く、公園の自分の場所です。健康に気をつけているんですね。日本人は歩く機会が少ないから、少し体を動かすだけで体の調子が違ってくるんじゃないでしょうか」

そして今後については「健康も大事だし、だけど自分のレベルも知るためにも競技会も参加していきたい。それにあちこちの人たちと交流も深めることもできるし、情報交換だけでなく、同級会みたいな感じで楽しいですから」と堀内さん。

太極拳をこれから学ぼうとする人には「人から聞いても自分でやらないと本当のところはわからないと思います。太極拳は一生できるものですから、やり始めた皆さんにはぜひ続けてもらって、よさを知ってもらいたいと思います」と堀内さんは言う。太極拳に関心のある人は、ぜひ愛好会に参加してみてください。

ほんの一冊

紙の今昔
小林嬌一・著
(新潮社)

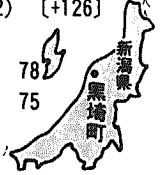


身近にあつてとて役立っているのに意外とその正体が知られていないもの——それが紙ではないでしょうか。この本は、紙の歴史や製法などについてやや専門的なくらいに教えてくれる「紙百科事典」とでもいっていい一冊です。特に大きくとりあげられているのが、酸性紙・中性紙問題、つまり紙の保存に関することです。最近、話題の再生紙問題については最後に軽く触れられているだけですが、資源保護の視点はしっかりおさえられていて、著者は「紙はこれからも、湯水のように使える時代が続くと、消費者は考えているかもしれない。だが、人間の運命は紙の運命と重なり合っているのである。」と最後を結んでいます。(この本は町立図書館に置いてあります)

(人の動き)

7月末日現在 (前月比)	前年同月比
人口 23,499 (+11)	[+311]
男 11,517 (+6)	[+163]
女 11,982 (+5)	[+148]
世帯 6,289 (+2)	[+126]

8月1日～末日	転入	転出
出生 20	78	75
婚姻 3		
死亡 12		



●今月号の表紙

八月三十一日で、最後の日の利用者の皆さんからお話を伺った。皆さん、親しい人との別れるような気持ちにたどられて、いかに親しまれていたかを実感。▼しかし、考えてみると、筆者は結立の湯にまだ一度も入ったことがないのだ。やはり、取り壊される前に入っておくべきだったか。施設の使い具合を知っておくのも広報担当には必要だ。

●来月号の表紙

文化祭 を迎えて、各サークルの考えなまた、来月号では九月議会の報告を掲載する予定です。

